

平成 2 9 年第 2 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 9 年 6 月 1 3 日 (開会)

平成 2 9 年 6 月 1 5 日 (閉会)

○議長（小林信） 一般質問を行います。次に5番 齋藤鉄子君の発言を許します。5番、齋藤鉄子君。

（5番 齋藤鉄子子議員 一般質問席登壇）

○5番（齋藤鉄子） 農業の多面的機能の維持、発展のための地域活動や営農活動に対して支援する多面的機能支払交付金は、優良農地の適切な保全管理や地域コミュニティ活動に大きな効果があり、活動を継続することが大変大事、重要なことだと思います。

行政報告にも書かれておりましたが、1集落が活動困難とのことで申請を取りやめました。聞いたところによりますと、理由として事務の複雑さと集落の高齢化等を挙げておられましたが、事務を引き継いでくれるところがあれば、まだ、続けたい、本音は続けたいということをお話しておりました。高齢ではあるけれども、まだまだ農作業はできるし、交付金も魅力的である。だけれども仕方が無かったと話されておりました。

このような集落が今後増える可能性があると思います。せつかくある国の交付金をうまく活用するためにも、村で事務を代行することを考えてみてはどうでしょうか。

例えば、土地改良区で事務を引き継いでくれるとか、そういったことをお考えがあるかどうか。村長、お伺いいたします。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 多面的機能支払協定についてであります。

農業の果たす役割というのは多面的にわたっておりまして、食料供給をするばかりではなく、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観な形成、文化の伝承など様々な働きをもっております。

近年、一農家当たりの耕作面積が増大しておりまして、一農家で農道や水路、草刈り等の環境整備をすることが大変難しくなっております。こういうことから、集落単位での環境整備をすることで、農業の果たす役割を維持するために事業に見合った補助金を交付しております。

この交付金を受けるには、5年毎に直接農業者の組織する団体の代表者及び役員と面談し、経理事務指導を実施しており、この事務手続きが煩雑なことから更新の手続きの際に消極的になっていると推察されます。

県、市町村、土地改良連合会によりまして、秋田県多面的機能支援協議会を設立し、交付金に係る技術研修や協議会による経理事務指導を行い、円滑な申請ができるよう支援をしておりますけれども、国からの経理事務に対する内容が厳しくなっていることから、経理事務を直接、土地改良区や地域の農協に委託をしている団体も出てきております。

例としましては、委託する場合、10%前後の委託料でパソコンへの取り込みや申請書、実績書の作成をしているようであります。協議会でも事務の煩雑化が懸念されていることから、本年度は事務委託希望組織の調査を実施しまして、人材バンク形式の受託支援体制を検討してまいりたいというふうに思っております。

○議長（小林信） 齋藤鉄子君。

○5番（齋藤鉄子） ありがとうございます。

ちなみに北秋田市の合川地区の場合は5地区、5集落が土地改良区で事務をお願いしているのだそうです。その集落単位で簡単な日報と申しますか、そういうのはつけておくのだそうですが、やっぱり事務を土地改良区で肩代わりしてくれることによって、会計検査とか、そういうのも集落とかでは心配ないと、土地改良区の方にくるから、そういうのは心配ないと、だからやれるし、また、その活動も偏らないと申しますか、この活動が足りないよとか、その土地改良区の方で判断して、そしてアドバイスしてくれるとも言っていました。

ですので、今、村長の答弁で、そういう希望も取ってくださるような発言をしてくださいましたので、そうなりますと辞めないで、せつかくある補助金であります。国が50%、県が25%、村が25%の補助金ですので、例え、土地改良区の方へ10%の手数料を払ったとしても、それはそれでまず集落で共同作業するということで、親睦交流も図られますし、また、景観の維持、優良農地にも取り組めることとなりますので、ありがたいなと思います。ぜひ実現してくださるよう、よろしく願いいたします。

ところで、5月3日の農業新聞に書かれてあったこととお話したいと思います。

山口県の田布施町のことが載っておりました。そちらの方では16ある組織なんだそうですが、一本化して広域組織を設立したそうです。

市町村単位で協定をまとめるのは中国四国地方では初めてのことでありまして、こちらの方でもずっと大きい面積でありました。

年間2,600万円の交付金が出るのだそうです。やっぱり小規模で高齢化が進む集落では、組織運営が厳しい。町で資金や人手を融通し、農地や農業用施設を効率よく管理する体制を築くということでありました。

広域化の目的は、集落単位での流通に限られた資金や人手を、町全体で回すこと。それで、やれないような大規模な工事にも、その資金を回して、集落単位で順番に回していけるような工事もできるということでありましたので、そういった面も、まだ、上小阿仁村の場合は、まだまだそれはないかもしれません。その集落単位でやれるところがまだまだたくさんあるようでございますので、行く行くはそういったことも頭に入れてくださいますして、せつかくある国の交付金でありますので、ぜひ無駄にしないように、よろしく願いしたいと思います。

以上、終わります。

○議長（小林信）　これで、齋藤鉄子君の質問を終わります。